看護部だより
ひまわり
VoL.54
2018年7月
発行責任者　久保洋子

新人職員一泊宿泊研修報告

日時：５月２５日～２６日
場所：鹿屋市交流センター
　　湯遊ランドあいら

【新人看護師】４階西病棟　西野

今回の一泊宿泊研修で特に印象に残ったのは、マンダラート作成でした。グループで行う事で様々な意見が出ていました。目標を市民病院にふさわしい職員になると掲げ、その為に何が必要かを考える事で、「今、私に足りないものは何か」と言う思いと、「今後も継続していかなければならない事は何か」と思いなおす機会にもなりました。他メンバーの新たな意見が出る事で「なるほど、そんな考え方もあるな」と思い、市民病院にふさわしい職員になる為には、他者の意見にも耳を傾け受け入れる事も大切だと学ぶ事が出来ました。

今回看護部だけでなく、他職種の方々と宿泊研修を行い、同じように不安や希望など様々な思いを持ちながら、市民病院で働くスタッフと意見交換やコミュニケーションを行う事で、改めて「私も頑張ろう」と言う思いになりました。スタッフ間で良いコミュニケーションを図る事で、仕事がしやすくなるだけではなく、楽しく働く事が出来るのだと感じる事も出来ました。看護師として、自分の仕事だけではなく、他職種の仕事にも関心を持ち、相手の考えや立場も大切にした上で、連携や意見交換をしっかりと行えるように今回の学びや気づきを大切にしていきたいと思います。

【新人看護師】地域包括ケア病棟　奥平

今回の一泊研修に参加して、看護部以外の事務部や総合リハビリ部など他職種との交流を図ることで、互いの信頼関係が深まり良質なサービスを提供できると思いました。

マンダラートの作成や座談会などの様々な活動を通して交流を図り、信頼関係を構築することで、他部署・他職種職員の専門性を活かしたチーム医療に繋ぐことができると思いました。また、仲間がいるという心強さを感じました。

消防局見学では、地震・暴風・火災・消火の体験をしました。実際に東北大震災のＤＶＤを鑑賞した際、言葉が出ませんでした。このような状況で看護師として動けるように、被災者のケアができるような看護師になりたいと思いました。今回の研修を今後に活かしていきたいです。

【プリセプター】４階西病棟　原田

今回の一泊研修の中で、他己紹介と呼ばれる物がありました。[他己紹介]とは、新人職員同士２人１組のペアになってもらい、限られた時間の中で相手について情報収集しそれを自分なりにまとめ、皆の前で発表すると言うものでした。新人職員の方は相手に関心を向けて情報を収集することができていたと感じます。

相手を知るということは、相手に興味を持ち、関心を向けなければ情報を収集することはできません。日々の業務の中で業務に追われ患者さんに興味を持ち、情報を収集できていただろうかと思わせてくれる研修であったと思います。初心にかえり業務を行いながらも患者さんに関心を向けて立ち止まり訴えや話をできるようにしたいと思いました。

【教育委員】手術室　甲斐

新人職員一泊研修に教育委員として参加しました。
今回は看護部、リハビリ部、事務部からの参加でした。他己紹介、ウォークラリーなどを通して他部署スタッフとも打ち解けて話す事ができていたと思います。また、座談会では新人職員ならではの思いを抱え仕事に臨んでいる姿を見ることができました。教育委員として、新人職員の思いを尊重しながら関わり、教育・指導を行っていきたいと思います。

【教育委員】外来副師長　栗原

新入職員のみなさんと共に一泊研修へ教育委員として参加しました。研修参加前に説明会が済んでいる事もあり、時間に追われる事もなく2日間の行程はスムーズに進んだと感じています。病院を出発し現地到着後、昼食を摂り研修開始。

久々湊看護部長の講話をはじめ、教育委員及び新入職員の指導にあたるコメディカルスタッフによる研修やグループによる活動、体験学習・川内消防局施設見学と災害体験など内容は充実していたと思います。充実した内容の中でも一番充実したのは同じ様な悩みを持つ新人職員同士の交流だったのではないかと感じます。座談会で時折聞いた「同期」の大切さや支えがあってこその今、これからなんだと感じました。

新人職員との交流から初心を思い出し、H30年度生のみなさんと共に頑張って行きたいと思います。

院内研修

4/17　新人基礎研修「褥瘡ケア・SGA/NSTの活動について」を受講して

3階東病棟　飛鷹

今回の研修を受けて、皮膚の圧迫だけでなくズレによっても褥瘡の原因となり、その為予防として体位変換・除圧・スキンケアの大切さを学びました。ギャッジアップした時に背中にズレが生じ、床ずれや褥瘡の原因になると実際に体験する事で患者が置かれている状態を知ることが出来ました。体位変換や除圧、適切なマットレスの選択を行っていく事で褥瘡の予防に繋がると学びました。

入院時に褥瘡の評価を行い、ブレーデンスケールが14点以下の場合は看護計画の立案とNST介入を行い、入院中の褥瘡や床ずれの状況を評価していき、褥瘡の発生予防や悪化しないように関わっていく必要性を学びました。

体位変換や除圧・栄養状態の観察を行っていき褥瘡予防を意識してケア出来る様に実践していきたいです。

5/7　ラダーⅢ「当院が目指す看護師像」を受講して

講師：副看護部長　長井砂都美

4階東病棟　猿渡

今回の研修を受け、当院は地域の中でどのような役割を担っているのか、また、自分が今置かれている立場であったり、どのような役割を担っているのかなどを改めて考え直す機会となりました。地域の方々がどのような看護を求めており、それに応えられる病院に繋げていく為に自分が出来る事は何かなどグループワークを行いながら考えました。まずは自分自身が患者や家族の立場となって提供できる看護を考えていく事、またリーダー的な役割を担う立場にある自分達が、後輩スタッフの手本となれるよう、責任を持った行動を行っていく事も大切だという事を学べたと思います。

4/25　看護補助者研修「臨床現場で倫理を考えることができる」を受講して

講師：師長室付師長　久留須加寿美

地域包括ケア病棟　豊田

倫理とは「道徳」「モラル」の事であり、決まりごと・守るべき秩序を差し、相手の気持ちを気遣い、思いやる心であると感じました。

また、看護する立場としてユマニチュードの４つの柱「見る」「話す」「触れる」「立つ」について自分の行動を振り返りました。普段、患者に触れる行為を当たり前にしていますが、患者は不快だが触れられることを受け入れなければならないという事に気付かされました。声かけが十分であったか、あらゆるケアに対して分かりやすく説明が出来ていたか、再度考え直すきっかけとなりました。

また、意識的に視線をつかみ、同じ目線で話す努力を怠らないようにします。本来、人との関係に何が大切なのかを見極めながら、日々精進したいと思います。

学研e-ラーニング研修「ラダーとキャリア開発」を受講して

4階東病棟　福山

今年度より、教育委員をすることになりました。教育について、当院ではクリニカルラダーを採用しています。今回受講した「ラダーとキャリア開発」では、基本である“クリニカルラダーとは”というところから改めて学ぶことができました。

自分の中で、「クリニカルラダー」と「キャリアラダー」の違いについて、理解が曖昧な部分もありました。クリニカルラダーは、臨床看護の実践段階。キャリアラダーは、看護職の専門的な能力発達や開発、管理的な能力や専門看護師・認定看護師・特定行為・看護教員など多岐にわたると学びました。また、クリニカルラダーのレベルに応じて学習することで、どの病院や施設でも看護実践ができるようになる看護師として成長できると知りました。

教育委員をする上で、基本的な「ラダー」について学習が足りていないと感じたので今回研修を受けてとても学びになりました。

今年度の教育委員となったことでこの１年を通して自分自身も多く学ぶことがあると思います。今回、研修で学んだことを教育委員として臨床の場で活かし自分自身や他のスタッフへも貢献していきたいです。

新人基礎研修「患者体験」を通して　（5/12～13、5/19～20）

4階西病棟　田島

患者体験では右足にニースプリントを装着して１日過ごし、移動は松葉杖を使用しての移動でした。松葉杖を使用するのは初めてで、右足は完全免荷であったためトイレ時の立ち上がりは特に大変でした。慣れない環境に慣れないものを使用しての生活は苦痛に感じました。患者様の色々な思いに少しでも気づけるよう、また、安心して入院生活を送る事が出来るようにすることが大切であると学びました。

4階東病棟　磯口

肝性脳症で不穏あり、ベッド上安静・体幹抑制・両上肢ミトン着用（食事以外着用）、トイレのみ車椅子使用可・弾性ストッキング着用の患者を体験しました。

実際に患者の立場に立ってみて、患者は私たちが想像している以上に気を遣っていると思いました。ナースコールを押す時、何か頼み事をするとき、色々な場面で申し訳ないと感じながら過ごしているのかもしれないと思いました。患者がより心地良く入院生活を過ごしていただけるように、忙しい時もそうでない時も、変わらない態度で患者と向き合い、変に気遣いされないことが大事だと思いました。

新人基礎研修「他部署体験」を通して　（5/28～31）

3階東病棟　松崎

今回の他部署体験では今まで知ることのできなかった他職種の役割・業務を知ることができました。他部署体験のなかでも私が一番印象に残った部署は医事課です。今まで医事課の役割や業務内容など想像もできなかったですが、医事課の役割・業務は看護師に大きく深く関わっていました。私たち看護師が患者に行う看護ケアを事務の方々が日々の看護記録等から抜き取り、その一つ一つの点数を記録していることが分かりました。看護師だけではなく、医師・薬剤師・栄養士・リハビリスタッフの行う専門的な医療行為も点数を記録し、病院経営に繋げていることが分かりました。日々看護記録を残す意味やコストを取る意味が今回改めて理解することができました。医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリ等のスタッフだけでなく事務職の方々の業務・役割によって日々の看護業務が滞りなく遂行できているのだと思いました。

回復リハビリ病棟　山下

今回、他部署体験を通して感じた事は、全ての業務は繋がっているのだという事でした。看護部での記入ミス・漏れなどあれば他の部署に響いてくることや、連携を図っていく必要があると実感しました。また、事務部や地域連携室、薬剤部など他にもたくさんの科を体験させて頂きましたが、看護部とは違った魅力や、忙しさなど知ることが出来、こちらも配慮しなくてはいけない部分も知れたので良い経験となりました。お忙しい中、貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。

インターンシップ研修

6月23日（土）
県立野田女子高等学校５年生
１名が一日体験しました

4階西病棟　松下

当院の基本理念である急性期医療を推進し、安全で信頼される医療を提供するを念頭に私たち看護師の行動を見学されていました。

患者・家族との関わり、入院受け、清潔ケア、処置等を直接目にしてもらうことで、自分はこうしてあげたい、看護師としてこうありたい等、よりイメージをつけることができたのではないかと思います。脳外科が希望ということで、当院を希望して、一緒に働くことができればいいなぁという思いで関わりました。

3階東病棟　坂元

母校の学生をインターンシップという形で迎えて、学生の頃の国試前の過ごし方や、最後の校外実習などの話をしながら楽しく過ごせたと思います。また、私自身も２年前にインターンシップに参加して当院への就職を決めたため、懐かしいひと時となりました。
来年度から、共に働けることを楽しみにしています。

手術室　川添

今回のインターンシップで母校の後輩を迎え、一緒に昼食をとりながら職場の雰囲気や勤務部署について話し、交流を図ることが出来ました。また、後輩の近況や学校の様子についても話ができ有意義な時間を過ごすことができました。今回のインターンシップをきっかけに、後輩と一緒に働く事ができることを楽しみにしています。

院外研修

5/20　平成３０年度「川内川総合防水演習」に参加して

地域包括ケア病棟　加治屋

　済生会川内病院：ＤＭＡＴと協力体制で、傷病者をトリアージし、病院へ搬送する訓練を実施しました。消防機関・自衛隊など多数の参加とヘリコプター・ドローンを使用しての救助、ニュースで出たとおり真剣に取り組みました。しかし、次々運ばれる傷病者の対応に時間がかかり、訓練の必要性と、実際を想定して備えが必要であることを再認識しました。
　演習で得た学びを、いつ起こるか分からない災害に活かせればと思っています。

6/2　「看護補助者の活用推進のための看護管理研修」に参加して

手術室師長　宝満

　効果的な業務運営と良質な看護サービスの提供を目的とした看護補助者の業務範囲や教育・職場環境について理解できました。
　現在、看護補助者の人員が不足しています。入職するが、入職直後であったり継続せず辞めたりとしている状況です。辞める理由に業務内容、人間関係、給料面など様々あると思いますが、看護補助者のモチベーションの維持のために看護チームの一員として「良い仕事ができる」、患者や家族に「役に立つことができた」という喜びを得ることができる職場環境づくりが必要であると感じました。また、安全に就業できる職場環境の整備として、雇用形態と処遇の検討を考慮することで人員の確保にも繋がり、人員の不足も解消していくのではないでしょうか。
看護補助者間での業務に関する情報交換を行うことで看護補助者の質の向上を図り、業務を委せられ看護の専門性を必要とする業務に専念する事で、看護職と看護補助者で適切に役割分担ができると考えます。

ミニナラティブ

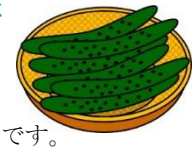
「障害受容への関わり」

回復リハビリ病棟　森山

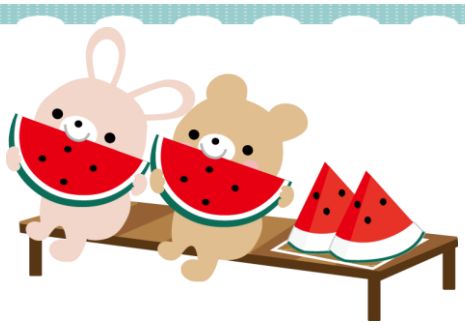
　受け持ち担当となった20歳代の男性。最初の印象は「素直な、いい子だな」と感じました。
腰椎椎間板ヘルニアで手術を行い、下肢の麻痺が残りました。本人は「リハビリを頑張って職場へ復帰したい」と希望が強く意欲的でしたが、思うようにリハビリも進まず、今後（将来）に対する不安からか、スタッフの毎日の声かけにもストレスを感じるようになり、口を閉ざすようになっていました。ある日、突然の過呼吸、意識消失。脳疾患も疑い、諸検査を施行しましたが、特に問題となる所見はありませんでした。
　その翌日から、まぶたを閉じてしまい開眼しなくなりました。両親も駆けつけ、彼の気持ちを確認しましたが「信用できる人は誰もいない」と一言。ショックでした。これまでの自分たちの関わりは何だったのか・・・。やりきれない思いと共に「もう、いいや」と、なにもかも投げ出したくなる衝動にかられました。
　しかし、自分たちが発している言葉や、彼のためと思って勧めていた看護が、大きな負担になっていたのではないかと反省しました。その後、主治医を含めてスタッフでのカンファレンスを実施し介入の方法について検討しました。しかし、彼の変化はなくそのまま退院してしまい、気持ちを確認することはできませんでした。
　病室の狭いベッドの上と、リハビリ室の往復、限られた空間での生活、ストレスは自分たちが想像する以上のものがあったのではないでしょうか。患者にとって障害受容とは簡単なものではありません。それまでの人生が一変し、今後の不安や環境の変化にも対応していかなければならず、その人の性格や周囲の環境など様々な事が合わさり受容していけるのではないでしょうか。
　私たち看護師は、そんな患者の気持ちに寄り添い、ベストな状態で療養生活が送られるよう、本人はもちろんのこと、家族や友人などの架け橋となれるよう援助していかなければなりません。そして、患者が笑顔で退院し、社会復帰できるような支援をしていきたいと思います。

マイブーム

４階西病棟師長　福永



　リハビリ棟の屋上に庭園があるのをご存じでしょうか？当病棟の大谷が趣味を兼ねて作物を育てています。その名も「大谷ファーム」です。病棟に入院されていた患者さんが名づけて下さいました。
　先日、患者さんと共に初収穫したきゅうりをいただきました。完全無農薬でとても美味しかったです。
　６月の突風に吹かれて枝が折れてしまいましたが、患者さん方の知恵をお借りして何とか新しい花が咲いています。ご自宅で農業をされていたり、花を育てることを趣味とされている患者さんもいらっしゃるので、リハビリの一貫として一緒に作業できたらいいな・・・と考えつつ今は一人で頑張ってくれています。
　今、ひまわりが元気に育ってくれています。夏には大きな花を咲かせてくれることを期待して待っていようと思います。



編集後記

　西日本の暴雨災害など、悲痛な報道に胸が痛みます。そんな中、うれしい話もありました。病院機能評価受審後の認定（合格）通知のお知らせです。
「当たり前のことを、当たり前に」を実行し、今後も更なる質の向上に努めていきましょう。（久保）